

エンテロウイルス レファレンスセンター報告

福島県衛生研究所	(北海道・東北・新潟)
神奈川県衛生研究所	(関東・甲信・静)
愛知県衛生研究所	(東海・北陸)
大阪健康安全基盤研究所	(近畿)
愛媛県立衛生環境研究所	(中国・四国)
福岡県保健環境研究所	(九州)

国立感染症研究所 ウイルス第二部

今年度の議題

1. 各ブロックからのエンテロウイルス検出情報
2. 感染性ポリオウイルスを含む可能性のある材料を取扱う施設を対象としたWHOガイダンス(PIMガイダンス)とPIM保有施設調査
3. AFP検査に関するアンケート結果報告
4. 急性弛緩性麻痺(AFP)病原体検査マニュアル作成の進捗状況
5. 質疑応答

抗血清、細胞の配布（H30年度実績）

抗血清分与	延べ6衛研(25種類)
細胞分与	延べ10衛研(RD-A:10衛研、L20B:10衛研)

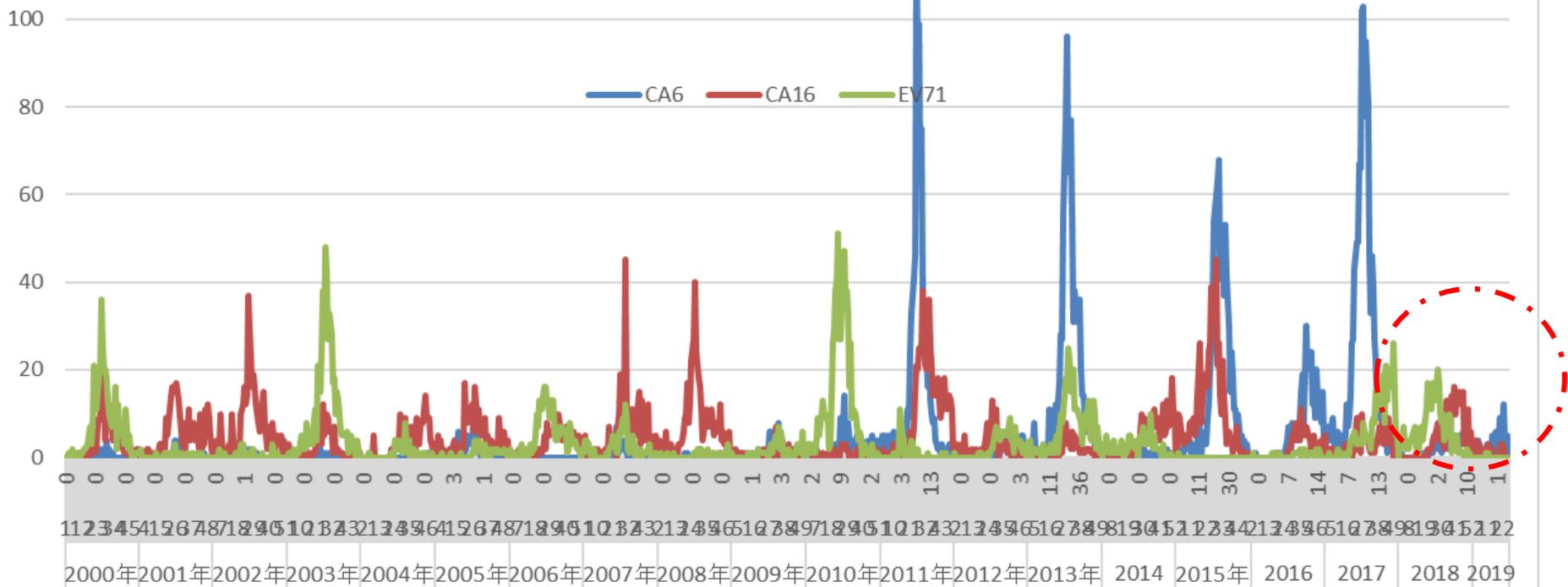
エンテロウイルス抗血清EP95*は各ブロックへ依頼ください。
その他の単味抗血清はウイルス二部へ照会ください。

RD-A細胞、L20B細胞は分与可能です。

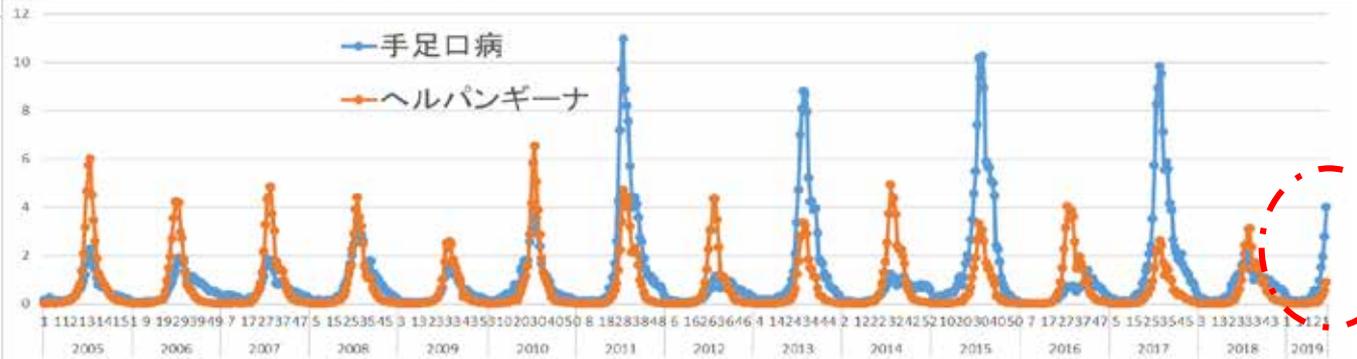
*EP95とは、1995年にエンテロウイルスレファレンス支部と共同で作成したプール抗血清。国内で流行した代表的な血清型を含む。

「無菌性髄膜炎病原体検査マニュアル」に使い方など詳細を記載

手足口病患者から検出されたCA6,CA16,EV71の動向



出典 NESIDデータを加工: 2019.06.28アクセス



出典 IDWRデータを加工 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/data.html> 2019.06.28アクセス

まとめ

2019年のエンテロウイルス検出について(2019年7月1日現在)

- 2019年シーズンのエンテロウイルスは手足口病患者からの検出が中心。
- 検出されたウイルスはCA6が多く、次いでCA16 (昨年シーズンはEV71とCA16がメイン)。
- CA6による手足口病は、ほぼ2年周期の流行を示すこと、またCA16の検出報告もあることから今後の動向に注視。

急性弛緩性麻痺 (AFP) 検査マニュアルについて

- 2018年度実施したAFP検査体制に対するアンケート結果について情報提供(愛媛県立衛生環境研究所長四宮(豊嶋)先生より)
- AFP検査マニュアルは感染研と地方衛生研究所の執筆担当者とともに、基本的な検査の方向性について検討中
- 地衛研で対応可能なウイルス分離用細胞、PCR検査の位置づけ、について今後とも検討が必要
- マニュアル案はエンテロウイルスレファレンスセンター6支部でも検討し、支部内の地衛研の意見を反映していく予定。